

【貸借対照表】

たいしゃく
たいしょうひよう

「貸借対照表」とは、決算時に会社の財政状態を一覧にした表です。「資産の部」「負債の部」「純資産の部」の3つからなります。

資産の部の合計と負債・純資産の部の合計は、必ず一致します。そのため、貸借対照表は「バランスシート」とも呼ばれます。

資産の部とは

資産の部には、会社が所有している財産が「流動資産」と「固定資産」の2つに分けて表示されます。

流動資産には、現金からはじまり預金、売掛金、商品など、通常1年以内に現金化されるものが、換金しやすい順番に表示されます。

固定資産は、「有形固定資産」「無形固定資産」「投資その他の資産」の3つに分類されます。有形固定資産には建物、構築物、機械装置、工具器具備品、土地などが含まれ、無形固定資産にはのれん、ソ

フトウェア、特許権などが含まれます。投資その他の資産には、投資有価証券、長期貸付金などが含まれます。

負債の部とは

負債の部も「流動負債」と「固定負債」に分かれます。

流動負債とは、買掛金や未払金、未払費用、未払法人税等など1年以内に支払わなければならない債務です。

固定負債には、長期借入金、預かり保証金などがあります。これらは支払期日が1年を超えるものです。

純資産の部とは

純資産の部は、株主から拠出されたもの（資本金、資本準備金など）と利益の累積（利益準備金、繰越利益剰余金など）から構成されますが、累積された利益も最終的には株主に帰属します。

負債が第三者に返済義務があるのに対し、純資産は第三者への返済義務がありません。

担当者なら知っておきたい

第6回

「経理用語」

(株)CFO代表
税理士・
米国公認会計士
高橋 和徳



【損益計算書】

そんえき
けいさんしよ

「損益計算書」は、一定期間（通常1年間）に会社がどれだけの利益を獲得したかを表わす計算書です。

売上高から費用を引いた額が「利益」で、段階的に5つの利益（売上総利益、営業利益、経常利益、税引き前利益、税引き後利益）が表わされています。

損益計算書は、通常、前年との比較でみます。売上高を比較して成長性をみたり、利益率の推移をみて収益性を判断します。

期初に立てた予算に対する達成状況をみるため、予算との比較も行ないます。

売上総利益とは

売上高から商品の仕入原価や製造原価である売上原価を引いた額が「売上総利益」です。「粗利」ともいいます。

営業利益とは

売上総利益から販売費および一般管理費を引いた額が

「営業利益」です。商品売するための諸費用である販売費や、会社の管理のための管理費などが販売費および一般管理費の内容となります。

営業利益は「本業による利益」ともいわれます。

経常利益とは

営業利益に雑収入や受取利息、受取配当金などの営業外収益を足し、支払利息などの営業外費用を引いた額が「経常利益」です。

経常利益は、本業の利益に財務活動の結果を反映させた利益です。借入金の多い会社では、営業利益と経常利益が大きく異なることもあります。

税引き前利益と税引き後利益

「税引き前利益」は、固定資産売却益や特別損失を経常利益に加減算した利益です。

法人税等を計算し、税引き前利益から法人税額等を引いたものが「税引き後利益」になります。